

「だれかの汗が、社会を動かす」
～がん対策基本法の制定8年目に、
がん対策を振り返り、これからを展望する～

国会がん患者と家族の会 事務局長
(衆議院議員)
古川元久

2014年5月16日
国会がん患者と家族の会 総会

がん対策基本法は、こうしてできた

- まずは動画を見てください。

○山本たかし議員 国会演説

<http://www.youtube.com/watch?v=skLUObSLNHA>

○尾辻秀久議員 国会演説

<http://www.youtube.com/watch?v=SCbhuhos0xA>

...国会議員の尽力もありました...

がん対策基本法制定の構図

- 闘病中の患者さんの訴え⇒患者大集会の開催⇒メディアの報道⇒基本法の提案...
- 社会的なムードが高まった
- 議員立法（患者と議員が共に取り組んだ「市民立法」とも呼ばれる）
- 患者さんたちが汗をかいた。議員も汗をかいた
- 汗をかいたから、動いた
- 原点を思い出すことが大切

がん対策基本法の意義

- ○基本理念（第2条）

（1）がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上（技術の向上・発展）

（2）居住する地域にかかわらず等しく適切な医療を受けられる（均てん化）

（3）本人の意向を尊重した治療法などの選択ができる体制整備（患者の尊重）

- ○患者参加（第20条）

協議会の委員は、がん患者及びその家族又は遺族を代表する者……のうちから、厚生労働大臣が任命する

基本法の当初の限界と克服 (生んで育てる)

- タイミングを失っては成立しない懸念があった
- 完璧を目指すのではなく、生んで育てる方針だった
- いくつかの残課題や懸案があることは認識されていた（例：がん登録、たばこ対策...）
- がん登録⇒このたび、個別法で対応した
- これからも、がん対策基本法（および関連する法令等）を“育てていく”ことが大切

がん対策はここまできた (これまでの8年の成果の総括)

- **主な成果**

- **予算が増加**

- **行政（国や都道府県等）組織で担当者も増加**

- **各地で県条例の制定や県計画の強化が進展**

- **各地で患者・住民主導の取り組みも拡大**

- **基本法によって、がん対策全般が活性化**

参加者アンケートから

- **がん対策の「量」は増えたが...**
ハード面偏重からソフト中心に転換できたのか？
患者さんのところに届いているか（患者の尊重）？
- **対策の「質」と共に「成果」も同時に追求していく。**
患者のための成果が出ているかを問う「PDCAサイクル」が大切
- **参加者アンケートから**
アンケート結果全体の傾向
いただいたコメントから

がん対策推進条例は、ここまできた

- **32道府県で制定**
- **みなさんの人的ネットワークの中で広がってきた**
- **条文、条項、内容が、だんだんと充実してきた**
- **条例の改正に取り組むところも相次ぐ**
- **都道府県間の切磋琢磨、創意工夫、相互影響が生まれた**
- **昨今の条例には就労支援など先進的内容も含まれる**
- **47都道府県制定／条例の内容の均てん化が予想される**

がん対策基本法とがん対策推進条例

- **基本法の制定が、がん対策をリードしてきた**
- **基本法の存在が、がん条例の普及の背景にあった**
- **⇒多くの条例・条項が、基本法を上回ってきた**
- **⇒基本法10年目の節目を前に、基本法改正を検討することが必要**

がん対策基本法改正が必要な理由

1. 条例が基本法を上回っている
 2. 第2期基本計画が基本法を上回っている
 3. 死亡削減目標（10年で20%削減）が達成できない見込み
 4. かねてからの残課題（がん登録=済、たばこ対策...）の存在。「生んで育てる」方針の実行
 5. 患者、現場、地域の満たされないニーズは残ったまま（アンケート結果のとおり）
 6. 医療全体が目指す方向の変化（2025年超高齢化社会への対応、地域医療の機能分化と連携=再編の促進、医療計画のPDCAサイクル強化...）
- *こうした環境に適応し、改めて、患者のための医療改革の牽引役の位置づけに

がん対策のルネッサンス（再興）を

- **基本法制定当時の2006年から提言活動をしている人は、この会場で何人？**
- **全会一致で成立した基本法だが、今の議員のうち当時議員だったのは何割？**
- **⇒ 「汗をかいたことで動いた」ことを思い出し、原点を忘れず、基本法10年に向けて、がん対策の再興に、共に取り組んでいきたい**

今後の展望

- 議連として、基本法改正に取り組んでいく。そのプロセスで、がん対策をもう一度見つめ直す
- 議連として、がん対策のPDCAサイクル（進捗状況のチェック等）や評価などにも、継続的に取り組む
- みなさんのネットワークとご尽力が貴重。国からのトップダウンだけでなく、地域からのボトムアップ、さらには地域と地域の協働を、併せて進めることが大切

ありがとうございました
と一緒に、汗をかいていきましょう